

小学校

光村ポケット生活

わたしの
実践アイデア



おおきなあれ
わたしのおこめ

実践 File
vol.3

佐賀大学教育学部附属小学校
嶋田恭子先生のご実践から

1年 内容(7)「動植物の飼育・栽培」



光村図書



LINE公式アカウント友だち募集中!
授業づくりに役立つ情報を、
いち早くお届けします。



【教授用資料】 本資料は、一般社団法人教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」に則って作成したものです。

「おおきくなあれ わたしのおこめ」(1年)

佐賀大学教育学部附属小学校 教諭 嶋田恭子

自分の経験や気づき、驚きを誰かに伝えたくてたまらない子どもたち。その声に耳を傾け、関わりを積み重ねることで、自身の気づきを大切にしようとする姿勢が生まれます。本単元では、ある児童のつぶやきから、田んぼづくりや稲作に活動が発展していきました。子どもの気づきや思いを捉え、充実した学びを実現するためのヒントを、実践をもとにご紹介します。



単元構成の工夫

「先生、聞いて！」から始める単元構成

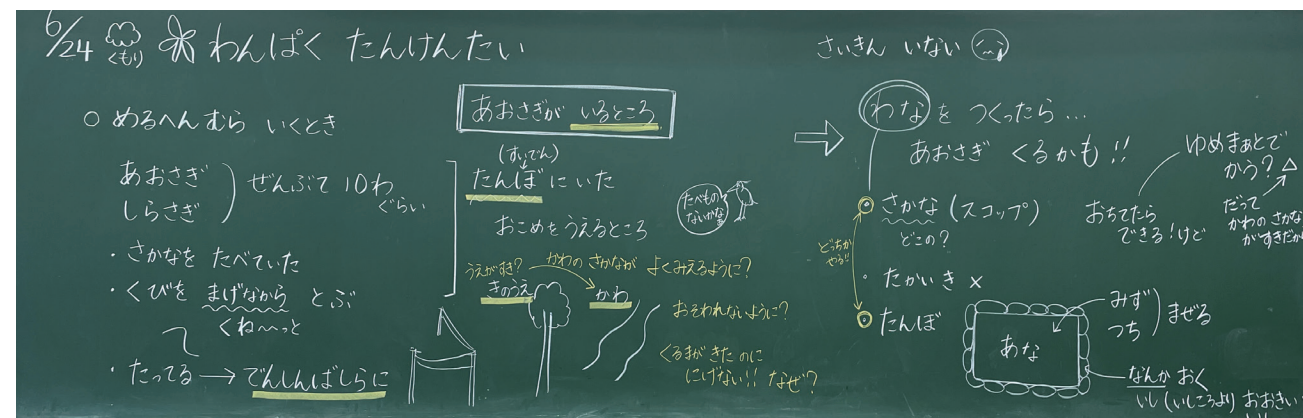
1年生の教室では、「先生、聞いて！」という声が日常的に聞こえてきます。そこで、授業の始めに、聞いてほしいことを自由に話すことができる「今日のはなしたいむ」を設けました。

ある日の「はなしたいむ」で、校外学習について話していたときのこと。一人の児童が、学校探検のときに校庭で見つけたアオサギについて、「最近いないね。」とつぶやきました。それを聞いて、「どうしたのかな。」「また来てほしい。」という思いが学級に広がります。田んぼでサギを見た経験から、「学校に田んぼがあれば来るかも。」

と予想し、田んぼづくりと稲作に取り組むことになりました。子どもの「伝えたい！」という思いを受け止めることが、対象への関心を広げるきっかけになりました。



「今日のはなしたいむ」。教師は聞き役となる。



「今日のはなしたいむ」の板書。左半分は「はなしたいむ」、右半分はアオサギを呼ぶ作戦について記載している。

活動の流れ 実施時期 6月～10月 | 時数 22時間(他教科の時数と併せて) | 内容(7)「動植物の飼育・栽培」

小単元名	時数	学習活動
田んぼを つくろう	6	<ul style="list-style-type: none"> 必要なものを考え、準備する。 田んぼを作る。
おこめを そだてよう	8	<ul style="list-style-type: none"> 苗を作って、田植えをする。 稲の様子を見たり、世話をしたりする。
おこめが たべたい	8	<ul style="list-style-type: none"> できたお米やわらの使い道を考え、試す。 これまでの活動を振り返る。



表現方法の工夫

気づきの表し方を選べるようにする

稲が目に見えて大きくなっていく中で、児童たちは日々の変化をうれしそうに伝えに来ます。その気づきの表現方法を、児童自身が選べるようにしました。文章で書くことに限定せず、付箋や無地のノート、タブレットでの写真や動画撮影など、複数の媒体を用意し、少しずつ使い方を紹介していきました。



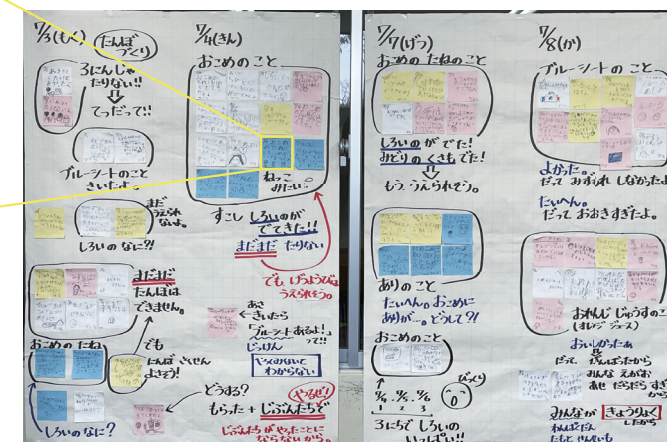
記録を行う場所やタイミングも、児童が選べるようにしている。



これまでやってきたことや気づきをペープサートで表現し、動画で記録している。

ある児童は、ノートに葉の数を増やししながら稲の絵を描いて「1、2、3」と番号を振り、「いま」「あした」と言葉を書き加えていました。児童の思考を正確に捉えるため、「何を描いたの?」と声をかけ、気づきや考えを聞き取るようにしました。すると、「たぶん明日はこうなると思う。」と、稲の生長を予想し、描き表していることが分かりました。

表現方法を選択できるようにすることで、児童それぞれの気づきがより豊かに記録に表れ、一人一人がもつ多様な気づきが学級全体に共有されていきます。



付箋で気づきを色分けし、模造紙に貼ったもの。各色の内容は下記の通り。

白「〇〇したよ」	黄「びっくりん」	青「なぜ」	ピンク「気持ち」
<ul style="list-style-type: none"> ・したこと ・見つけたもの 	<ul style="list-style-type: none"> ・こうしたらうまくいった ・いいこと思いついた ・なぜかとけた! 	<ul style="list-style-type: none"> ・なぜかな? ・しりたいよ ・こまったよ 	<ul style="list-style-type: none"> ・じぶんの気持ち ・じぶんのかおも ・かいてもいいね

活動の様子



田んぼを作るために、バケツで土を運ぶ。

種もみから白い芽が生えていることに気づき、興味を抱いている。

稲の葉の柔らかさを感じている児童たち。田んぼの中に入り、稲刈りをしている。

次の活動へつながる問い返し

気づきが言葉や絵として現れても、「いいね。」「すごいね。」で終わってしまうと、学びは深まりません。「次はどうする?」「どうしたい?」と問い返し、次の行動を児童たち自身が意識できるようにしました。

「これから大きくなるはず!」と予想しながら世話を続けていた児童たち。ある日、稲の先に白いものを見つけ、「何か付いてる!」と大騒ぎになりました。「これは何だろうね?」と問い返すと、図鑑を使って調べ始めましたが、載っている写真とは様子が少し違います。「これはお米の花なのか?」という疑問が学級全体に広がりました。翌日、白いものが増え、「お米の花だ!」と確信します。そこで、さらに「この後どうなるだろう。」と問い返すと、より丁寧な観察や調べ活動へと発展していきました。



稲の先に一つだけ付いた白いものと、図鑑に載っている稲の花とを見比べている。



翌日も稲の様子を見にいく児童たち。

開花から40～45日で収穫できることを知った児童たちは、日数を数えて、稲刈りの日を楽しみにしている様子でした。次を意識した問い返しにより、観察が、見通しをもった継続的な学びへと変わっていきました。



カレンダーを確認している児童。開花から稲刈りまでの日数を数えている。

教科書にはこんな工夫

教科書には、生活科の学びを支える工夫が満載。

ここでは、編集部が特におすすめしたいポイントをご紹介します。



▲上巻 別冊p10「はるからそでてる はな」

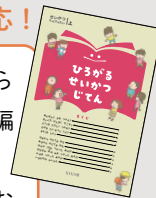


▲下巻 別冊p22「やさい作りの こつ」

●単元に即した資料で個の学びに対応!

「ひろがる せいかつじてん」は、本編から取り外して活用できる別冊仕様の資料編です。

各単元に関わる資料を豊富に収録しており、子どもたちが自分の目的に合わせて活用できます。



光村図書

教授用資料

発行者 吉田直樹
発行所 光村図書出版株式会社
〒141-8675 東京都品川区上大崎2-19-9
電話:03-3493-2111(代表)

光村図書ウェブサイト

光村図書 | 検索

